

こども病院副院長を拝命して

副院長 小 山 雅 司



衣替えの季節を迎え、汗ばむ季節になってまいりました。

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は当院の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、副院長を拝命いたしました小山雅司と申します。身に余る重責に身の引き締まる思いでございます。

兼ねてより務めております放射線診療部長および医療安全部長の職務ともども、今後は病院全体の運営にも注力し、地域医療の発展と連携の強化に専心努力いたす所存です。

まずは診療の基盤となる医療安全管理体制の更なる充実に努めてまいります。坂本院長や渡邊副院長のご厚意で、名古屋大学医学部附属病院患者安全推進部の長尾能雅教授のもとでの研鑽機会をいただき、昨年来、CQSO第7期生として学んでまいりました（現在継続中）。この先は、研修した内容を当院に合った形で実践し、当院理念の“安心と信頼の医療”に貢献することが私の使命と考えております。

放射線診断の分野におきましても、迅速かつ正確な読影にこれまで以上に精進してまいります。読影室にこもることなく、各診療科と広く協働することで、地域の先生方のお役に立てるよう努める所存です。とりわけ昨今深刻化する小児虐待問題に対しては、対策委員のひとりとして画像診断の知見を活かし、こども達の安全確保に尽力してまいります。

病気や怪我に直面したお子様や、不安を抱えるご家族が、いつでも「こども病院にすれば大丈夫」と思える小児医療の砦として、こども達の目線に立った温かい医療の提供とご家族に寄り添う病院づくりに努め、これまでどおりこども達の健やかな成長を支えてまいりたいと存じます。

微力ではございますが、坂本院長を補佐し、職員一丸となって地域に貢献できるよう誠心誠意励んでまいります。

今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

Contents

こども病院副院長を拝命して…………… 1	ガイドラインから法定化へ…………… 4・5
こども病院院長補佐を拝命して…………… 2	新任部門長の紹介…………… 6・7
こども病院看護部長を拝命して・看護部新入職者紹介 …… 3	役職別主要者一覧・編集後記…………… 8

こども病院院長補佐を拝命して

こども病院院長補佐 滝川 一晴



令和8年4月からこども病院の院長補佐を拝命しました滝川一晴（たきかわかずはる）と申します。当院には27年間在籍し、平成18年から整形外科科長として、こどもたちの診療に携わっています。また、昨年度からは手術・材料部長も兼務しています。よろしくお願いいたします。

進む少子化の中、こどもたちの健やかな成長への願いは一段と増していると感じています。整形外科に限っても20年前と今では対応が必要なこどもの疾患やそのボリュームは大きく変化しています（当院は令和8年4月にホームページを全面リニューアルしました。各科の最新の診療実績についてもご確認可能ですので、ご興味がある方はご利用下さい）。

昨年度の当院の総手術件数は3019件でした。手術が必要なこどもの状態や手術方法も以前とは様変わりしています。現在の私の一番の仕事は、手術が必要なこどもたちやそのご家族に、手術が円滑に行われ入院から退院まで安心できるよりよい環境を整える事です。そのためには、関わるスタッフの働きやすい環境作りも必要となります。当院の一番の特徴は、各診療科や部門間の垣根が低く、こどもたちを第一に考えた連携をとる事が行いやすい組織だということです。時代の変化に迅速に対応しながら、安全・安心はもとより、よりよい医療を提供できるように多職種と協力して、こどもたちやそのご家族のために尽力する所存です。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

ホームページがリニューアルオープン！



リニューアルポイント

- ①スマホファーストのアプリ風デザインで情報を探しやすくしました！
- ②「こども」を意識し動画やイラストを多数用いたこども向けページを作成しました！



静岡県立こども病院



こども病院看護部長を拝命して

こども病院看護部長 鈴木 千里



若葉が鮮やかな季節となりました。

皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

当院は、小児専門病院として高度小児医療を担い、こどもたちとご家族に寄り添った医療・看護の提供に努めています。

看護部では、「こどもの生命と権利を尊重し、家族とともにこどもの心身の健康と成長・発達を支援する」という理念のもと、安全で安心できる看護の実践を目指しています。

また、多職種と連携しながら、周産期から在宅まで「切れ目ない看護」を大切にし、人材育成や働き続けられる職場づくりにも力を入れております。

新たな仲間とともに、「こどもの笑顔と未来を愛ある医療で守る」を胸に、地域に信頼される看護を実践してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



看護部新入職者紹介



当院看護部では、このたび36名の新入職者を迎えることができました。
今年度入職した新入職者は、こどもたちの笑顔に寄り添える看護師を目指し、日々学びを重ねています。

看護部では、一人ひとりの成長を大切にしながら、温かな心を持った小児看護の実践につなげていけるよう支援してまいります。

これからも地域の医療機関の皆様と連携しながら、安心してご紹介いただける医療・看護の提供に努めてまいります。



ガイドラインから法定化へ

小児夜間一次医療に、来院型オンライン診療

— 全国に先駆け静岡県立こども病院が切り拓くオンライン診療の最前線 —

静岡県立こども病院、情報管理部長 太田 教隆



深夜、子どもが高熱を出した。近くに診てもらえる小児科がない。救急車を呼ぶほどではないが、このまま朝まで待つのも不安だ。——そんな日本全国保護者の切実な悩みに、私たちはどう応えられるか？特に小児科医が少ない地域の子どもたちに医療をどう届けるか。近年民間組織を中心に様々なオンライン診療が展開され、それは主に地域医療相談を担っていただいているが、多くは数百キロ遠方の医師からの診察であり、適切な2次、3次救急への展開は容易でない。

この問いに真正面から向き合うべく、「夜間来院型小児オンライン診療」全国モデルとなる実証事業を皆さんの力を借りながら動かしているのが、私たち静岡県立こども病院です。

■ 厚労省委託「診療科偏在対策遠隔医療推進事業」採択

今年度の医療法改正によりオンライン診療が法定化され、それに伴う診療報酬改定も行われました。そして厚生労働省は令和8年度特別予算事業として全分野の医学学術団体に「診療科偏在対策のための適切な遠隔医療等推進事業」を通知、令和8年4月、日本小児科学会からの依頼により静岡県立こども病院が単独事業として小児医療に対するオンライン診療モデルを実証します。

■ 来院型オンライン診療

訪問看護等を中心に看護師補助によるオンライン診療は定着しつつあり、今年度の診療報酬改定項目にも盛り込まれました。採血、レントゲン、CT検査結果の共有により比較的診療が進めやすい一般成人診療に対し、小児医療は問診、視診、聴診、触診がその大部分を占める診察です。

そこで患者様に診療所に来院いただき、看護師による診察補助のもとオンライン診療をこども病院医師が実施するのが小児来院型オンライン診療です。

■ 小児オンライン診療機器を選定—デジタル聴診器EKO CORE 500、本邦初使用へ

あらゆる小児診察時所見を想定し多くのオンライン診療機器をこども病院救急科医師と検証を重ねてきました。このたびデジタル聴診器EKO CORE 500の臨床研究目的による本邦初使用が正式に決定し、製造元米国企業との契約締結に至りました。

全体映像・・・・・・浅い促迫呼吸、皮膚色の变化も見逃さないリングライト付き4K webカメラ

耳鏡・・・・・・鼓膜から鼻口腔まで鮮明な画像が得られるデジタル耳鏡

聴診器・・・・・・浅い呼吸も聞き逃さないデジタル聴診器



デジタル耳鏡



デジタル聴診器

■ 富士市の夜間救急に「こども病院の医師」が届く

今年度最も注目されるのが、これら機器の導入の下に進められる富士市救急医療センターとの連携です。同センターには多くの時間外小児患者が訪れますが、安定した夜間小児科医確保は長年の課題であり、多くの地域で同様の状況に直面しており、2030年にはそれが現実問題として重くのしかかってまいります。本事業では地域小児3次医療を担うこども病院医師が来院型オンライン診療「D to P with N」を通じて医療を提供し、必要に応じて2次医療圏病院へ治療を繋ぐ。もちろん必要であれば、当院が受け入れ治療を継続し、最後まで途切れない地域密着完結型小児救急医療を提供いたします。

2次救急医療圏医師からも、3次救急医によるオンライン1次トリアージ的意味合いを持つこのオンライン医療がどのような効果を地域にもたらすか注目されています。

■ 未来の小児医療の形を、静岡から

当院はすでに「外来再診（clinics・モバイル完結型）」「川根本町（地域小児科診療）」「富士市救急センター（来院型夜間救急）」「2次病院若手医師指導医連携システム」と、一つの病院で複数形式のオンライン診療連携を同時展開している国内でもまれな小児病院としてのモデルケースを実現しつつあります。

そしてオンライン診療が法定化され、大規模な診療報酬改定が行われた今年、静岡だけにとどまらない、人口減少・医師偏在・過疎化という構造的問題の解決手段の一つとして、この静岡モデルがやがて日本の小児医療の標準モデルになる可能性を秘めています。

今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新任部門長の紹介



情報管理部長

太田 教隆



このたび、情報管理部長を拝命いたしました太田教隆でございます。昨年より診療情報管理室長として診療記録の質向上と情報基盤の整備に努めてまいりました。この経験を礎に、病院DXをさらに力強く加速させ、オンライン診療の拡充、積極的AI活用による院内業務の効率化、そして近隣医療機関との情報連携強化を柱として、医療スタッフが本来の診療に専念できる環境を整えながら、地域全体でこどもたちを支える体制づくりを目指してまいります。

皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

救急総合診療・地域医療部長

唐木 克二



今年度より救急総合診療・地域医療部長を拝命しました小児救急科の唐木克二と申します。現在、静岡県内では医師の地域偏在が深刻な課題となっており、小児救急医療の現場も例外ではありません。これまで地域の小児医療は、その土地に根差した医療従事者が地域の子どもの健康を守るため、真摯に診療に取り組むことで何とか維持されてきました。しかし、少子化や医師不足の波を受け、今後もさらに厳しい状況が続くと予測されています。このように医療資源が限られた難しい状況にあっても、子どもたちが安心して暮らせる環境を守り続けなければなりません。そこで私たちは、オンラインを活用するなどの時代に合った手法を積極的に取り入れてまいります。地域の皆様に寄り添い、限られた資源の中で少しでも医療の発展と安心の一助となれるよう、これからも全力で邁進いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

移植再生医療部長

川口 晃司



本年4月より移植再生医療部長を拝命いたしました、川口晃司と申します。
当院は、東海ブロックの造血幹細胞移植地域拠点病院の一つであり、2019年には小児がん拠点病院の指定も受けております。白血病や固形腫瘍などの悪性疾患だけではなく、再生不良性貧血、遺伝性骨髄不全症候群、先天性免疫異常症、先天性代謝異常症といった非悪性疾患の移植医療にも対応しています。
移植医療を必要とするこども達に、安全で質の高い医療を提供できるよう、多職種が緊密に連携し、日々全力を尽くしています。
さらに、近年目覚ましい進化を遂げている再生医療分野におきましても、倫理面に十分配慮しながら、こども達へ迅速かつ安全に新しい医療を届けるための体制づくりに努めてまいります。
今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

予防接種センター長

中村 祥崇



今年度より予防接種センター長を拝命いたしました、小児感染症科の中村と申します。当院の予防接種センターでは、静岡県内における予防接種の適切な実施をはじめ、予防接種に関する知識や最新情報の提供、医療相談事業などを担っています。具体的には、ワクチン外来での基礎疾患などにより慎重な対応が必要な方への予防接種の実施や、オンラインを活用した講演活動、自治体・医療機関から寄せられる予防接種に関する相談への対応・助言などを行っております。日頃より市民の皆様からの相談対応に尽力されている行政の予防接種担当者の方々、ならびに地域で接種推進にご尽力いただいている開業医の先生方には深く感謝申し上げます。今後も皆様と連携しながら、SNSなどに様々な情報があふれる中でも、科学的根拠に基づいた正しい情報を発信し、こどもからおとなまで県民の皆様が安心して予防接種を受けられるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

脊椎診療センター長

藤本 陽



このたび、脊椎診療センター長を拝命いたしました藤本陽です。私は2009年から2011年まで当院で勤務し、その後、脊椎外科を専門的に学んだうえで、2018年より静岡県立こども病院に再び赴任いたしました。現在は小児整形外科の診療を基盤としながら、脊椎診療センター長として、より専門性の高い脊椎診療を提供できる体制づくりに努めてまいります。
小児の脊椎疾患では、成長や発達、呼吸機能、日常生活動作など多くの要素を考慮しながら、長期的な視点で治療を行う必要があります。また、患者さん本人だけでなく、ご家族や地域の医療・福祉・教育機関との連携も重要です。当センターでは、多職種と協力しながら、安全で質の高い脊椎医療を提供できるよう努めてまいります。
また、後輩医師の教育にも力を入れ、今後は次世代の小児脊椎診療を担う人材の育成にも努めてまいります。小児整形外科という大きな枠組みの中で脊椎診療を発展させ、こどもたち一人ひとりにとって最善の医療を提供できるよう尽力してまいります。今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



新任部門長の紹介

育児環境支援室長

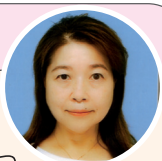
大石 聡



今年度から育児環境支援室長を拝命いたしました、大石聡（おおいし さとる）です。児童精神科医として、2009年4月にこども病院こころの診療科に赴任し、2020年からは発達小児科を含むこころの診療部の部長として勤務しています。我が国では確実に少子化が進んでいますが、こころを病んで医療機関を訪れる子どもの数は増える一方です。小中学校における不登校の子どもは12年連続で増加し、令和6年度には35万人を突破しました。また、虐待による死亡事例は年50件を超え、一週間にひとりの子どもの命が落とされています。当院は小児専門病院として、自院での子ども虐待の発見に努めると同時に、県内の小児医療機関が虐待を判断することや、通告をスムーズに行えるよう支援しています。また、県内の保健福祉機関と連携を密にして、子育てに悩む親御さんを支援できるよう、地域に繋ぐお手伝いをさせて頂いています。気になるお子さんを見かけた際には、どうぞ遠慮なくご相談ください。

総合医療相談室長

伴 由布子



このたび総合医療相談室長を拝命いたしました総合診療科の伴です。総合医療相談室では、医療費や福祉制度、在宅療養に関するご相談に加え、子育てへの不安やご家族からのご相談など、幅広い声に対応しています。地域の保健師さんや学校、福祉関係者の皆さまからご相談につながることも多く、こども病院が地域の中で果たす役割の大きさを日々感じています。実際の支援は、看護師や医療ソーシャルワーカーなど経験豊富なスタッフに支えられており、私自身学ぶことばかりです。病気だけでなく、子どもたちとご家族の生活全体を見据えながら、地域の先生方とも連携し、気軽ににご相談いただける敷居の低い窓口であり続けられるよう努めてまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

診療画像管理室長

梅田 聡志



今年度より診療画像管理室長を拝命いたしました放射線技術室の梅田聡志です。当院でも、15年ほど前までは画像検査の結果は全てフィルムで出力していました。毎日約200枚のフィルムが作られ、それらを放射線で管理し入院や外来で患者さんが来るたびに貸出・返却を繰り返していました。（100%アナログ作業でフィルムが紛失することもあり）
現在では、ほぼ全ての検査で画像はオンラインでサーバに保存され、必要なときに誰でも簡単に電カル端末から参照することができます。さらに検査装置の高性能化に伴いフィルム時代に比べ1検査あたり100倍～1000倍となった画像情報も余すところなく取得し表示できます。このようにデジタル化により多くの恩恵がありますが、管理次第では大きなデメリットも考えられます。診療画像管理室では、患者さん及び病院の財産であるこれら画像情報を正確かつ安全に管理し、診断・治療にフル活用できるよう維持していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

臨床工学室長

岩城 秀平



このたび、臨床工学室長を拝命いたしました岩城秀平と申します。昨年度には臨床工学室技師長を拝命し、臨床工学室の運営に携わってまいりました。
当院の臨床工学室は、人工心肺、ECMO、血液浄化、心臓カテーテル、手術室業務など、多岐にわたる生命維持管理業務を担っております。特にこども病院では、新生児から思春期まで幅広い年齢層の患者さんに対応するため、高度で繊細な医療技術と多職種との密接な連携が求められます。
日々の業務を通じ、患者さんやご家族が安心して医療を受けられる環境づくりの大切さを実感しております。医療機器の安全管理だけでなく、チーム医療の一員として、こどもたちとご家族に寄り添う姿勢を大切にまいりました。
今後も、より安全で質の高い医療の提供と人材育成に努め、患者さんにご家族に安心と信頼を感じていただけるよう、臨床工学室一丸となって取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



役職別主要者一覧 (変更箇所は赤字)

役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名
院長	坂本 喜三郎	移植センター長	北山 浩嗣	【診療科長】	
副院長	田中 靖彦	輸血・細胞治療センター長	川口 晃司	総合診療科長	伴 由布子
副院長	渡邊 健一郎	小児がんセンター長	渡邊 健一郎	小児感染症科長	莊司 貴代
副院長	小山 雅司	ゲノム医療センター長	清水 健司	小児救急科長	唐木 克二
院長補佐	滝川 一晴	IVR (放射線画像下治療) センター長	金 成海	小児内科長	勝又 元
医療安全部長	小山 雅司	エコーセンター長	新居 正基	新生児科長	中野 玲二
医療連携部長	北山 浩嗣			血液腫瘍科長	渡邊 健一郎
情報管理部長	太田 教隆	【室長】		血液凝固科長	小倉 妙美
事務部長	村上 健一	医療安全管理室長	小山 雅司	遺伝染色体科長	清水 健司
救急総合診療・地域医療部長	唐木 克二	医療品質向上室長	小山 雅司	内分泌科長	上松 あゆ美
周産期母子医療部長	中野 玲二	感染対策室長	莊司 貴代	糖尿病・代謝内科長	佐野 伸一郎
器官病態系内科診療部長	北山 浩嗣	地域医療連携室長	北山 浩嗣	腎臓内科長	北山 浩嗣
外科系診療部長	福本 弘二	育児環境支援室長	大石 聡	免疫アレルギー科長	目黒 敬章
移植再生医療部長	川口 晃司	入退院支援室長	北山 浩嗣	神経科長	松林 朋子
こころの診療部長	大石 聡	国際交流室長	芳本 潤	循環器科長	新居 正基
手術・材料部長	滝川 一晴	総合医療相談室長	伴 由布子	不整脈内科長	芳本 潤
放射線診療部長	小山 雅司	小児がん相談室長	渡邊 健一郎	集中治療科長	川崎 達也
診療支援部長	廣瀬 圭一	ボランティア活動支援室長	上松 あゆ美	放射線科長	小山 雅司
看護部長	鈴木 千里	褥瘡対策室長	桑原 広輔	臨床検査科長	河村 秀樹
		栄養サポート室長	福本 弘二	外科(小児外科・成育外科) 長	福本 弘二
【センター長】		臨床研究室長	渡邊 健一郎	消化器外科長	福本 弘二
患者相談センター長	目黒 敬章	治験管理室長	井原 摂子	呼吸器外科長	福本 弘二
チーム医療推進センター長	廣瀬 圭一	研究支援室長	廣瀬 圭一	心臓血管外科長	廣瀬 圭一
移行期医療支援センター長	満下 紀恵	診療情報管理室長	太田 教隆	脳神経外科長	石崎 竜司
臨床研究支援センター長	渡邊 健一郎	診療画像管理室長	梅田 聡志	整形外科長	滝川 一晴
研修推進センター長	松林 朋子	ITシステム管理室長	芳本 潤	形成外科長	桑原 広輔
予防接種センター長	中村 祥崇	医師業務支援室長	滝川 一晴	眼科長	武田 優
総合診療センター長	伴 由布子	臨床工学室長	岩城 秀平	耳鼻いんこう科長	橋本 亜矢子
小児救急医療センター長	唐木 克二	中央滅菌材料室長	滝川 一晴	泌尿器科長	濱野 敦
成人移行・診療センター長	満下 紀恵	放射線技術室(技師長)	梅田 聡志	皮膚科長	
集中治療センター長	川崎 達也	検査技術室(技師長)	横井 晴美	産科長	河村 隆一
血友病診療センター長	小倉 妙美	輸血管理室長	川口 晃司	歯科長	渡邊 桂太
周産期母子医療センター長	中野 玲二	成育支援室長	溝渕 雅巳	麻酔科長	渡邊 朝香
循環器センター長	新居 正基	リハビリテーション室長	真野 浩志	病理診断科長	岩淵 英人
脊椎診療センター長	藤本 陽	心理療法室長	大石 聡	リハビリテーション科長	真野 浩志
二分脊椎センター長	石崎 竜司	栄養管理室長	八木 佳子	こころの診療科長	大石 聡
頭蓋顔面・口蓋裂センター長	桑原 広輔	薬剤室長	井原 摂子	発達小児科長	溝渕 雅巳
リハビリテーションセンター長	真野 浩志				

静岡県立こども病院QRコード



★ホームページ

様々な情報の発信や内容の充実につとめています。
お知らせは定期的に更新しています。是非ご覧下さい。

←こちらからアクセス

編集後記 新年度、病院の体制も新たになり、ホームページも一新しました。「こども病院ひろば」も創刊号から最新号まで掲載しておりますので是非ご覧ください。

編集室：太田教隆、河村秀樹、小澤久美、堀池真由子